



十和田市立 新渡戸記念館だより

Nitobe Memorial Museum Newsletter

第70号

青森県立郷土館 共催「世界の蝶 展」2013/8/7～9/29 山内博尚コレクションより



新渡戸記念館にて魅惑の蝶を展示

十和田市立新渡戸記念館 館長 新渡戸常恵

地球上には数えきれないほどの生物が生息するが、昆虫界の蝶ほど人間に夢を想起させる姿容を備えたものはいないのではないかと。8月7日(水)から9月29日(日)まで当館を会場に開催した夏休み特別企画『世界の蝶 展～山内博尚コレクションより～』においては、皆様にその夢幻の世界をご堪能いただいた。この度の展示は青森県立郷土館と共催させていただき、世界各国の蝶の標本をはじめとする「山内博尚コレクション」(青森県立郷土館所蔵)からごく一部であるが、東南アジア産を中心に、特に美しい外国の蝶の標本およそ1150点などを展示した。蝶には大小様々な種類があるが、海外の蝶にはヴィヴィットな原色の組み合わせによる配色のものもいれば、ピロードのような妖艶な色やメタリック系のこの世のものとは思えない美しさを誇る種も多い。展示の標本は微細なジミチヨウから世界最大のトリバネアゲハまで一つ一つ状態が良く、標本の持ち主であった弘前市出身の山内博尚先生(日本蝶類学会会員)の蝶に対する並々ならぬ愛が感ぜられた。9月10日(火)この膨大なコレクションを打ち立てた山内先生にご来館いただいた。山内先生は御年80歳になった現在も、お元気に蝶の研究に情熱を注いでいらっしゃる様子であった。そして、減少傾向にある蝶の種を絶やすまいと、自ら母蝶が産



んだ卵を大切に守り育て野に放す活動を今も続けられているという。目の前の小さな命に目を凝らすと同時に、遙かなる世界に思いを馳せる心、山内先生はその貴い精神を博物館活動への協力を通して、次世代に伝えることを旨とされ、2004年青森県立郷土館へコレクションの全てを一括寄贈されたのだ。山内先生は「今回は南部地域の子供たちに昆虫の世界の素晴らしさを知ってもらい、大きな夢を育ませたいのです」と思いを語られた。そして、ちよとご来館の日、職場体験に来ていた十和田市立第一中学校3年佐藤太河くん、南遥香さんの手を一人ひとりとして「広い世界に目を向けなさい」と優しく語りかけられていた。

新渡戸稲造没後80年記念 新渡戸塾連携展

新渡戸稲造『農』への道 ～三本木原開拓から農業本論へ～

■会期：10月30日(水)～平成26年1月31日(金)
■場所：十和田市立新渡戸記念館 一階企画展示コーナー

主催：十和田市立新渡戸記念館 協力：Kiyosokyodo (共創郷土)

父祖の三本木原開拓を胸に農学を志し、日本初の農学博士となった新渡戸稲造。農学者・稲造の業績に光をあて、著書『農業本論』で展開する“貴農論”や“地方学”、さらに台湾の糖業改良の実践などから稲造が目指した農学、農業のあり方を探ります。

新渡戸稲造(25歳)
農政学を志し
ドイツ留学の頃



平成25年度 新渡戸塾 講演会『三本木原開拓と農業本論に学ぶ』

■講師：十和田市立新渡戸記念館 顧問 新渡戸 明 ■日時：11月16日(土) 14:00～15:00 ■場所：十和田市立新渡戸記念館

太素の水プロジェクト

公益財団法人日本水環境センター
プロジェクト推進課
プロジェクト推進課2011
稲生川開削と三本木原開拓の志を活かし、
共創郷土の伝統を未来に

10/19
(土)

稲生川クリーンアップ ウォーキング

「稲生米」のおにぎり&豚汁つき!

参加
無料



「未来遺産十和田・稲生川ウォーキングマップ」の中から、一本木沢ため池周辺の豊かな自然を満喫できる「一本木沢ピクトブコース」をウォーキングしながらごみを拾います。昼食には稲生川の水の恵みで育った「稲生米」の新米おにぎり&豚汁を東公民館でいただきます。

■日時：10月19日(土) 集合 9:30 開始 10:00 終了 13:00 (昼食あり)
■場所：集合＝十和田市東公民館 ※少雨決行・荒天時は東公民館においてパネル解説会と食事会
■定員：60名(参加無料) ※汚れてもよい服装で参加ください(可能な方は長靴着用)
■申し込み締め切り：10月12日(土)
主催：「太素の水」保全と活用連合協議会

申し込み・お問い合わせは「太素の水」保全と活用連合協議会事務局
TEL/FAX 0176-23-4430(新渡戸記念館内)

EVENT



寺子屋 稲生塾

【協力：新渡戸記念館ボランティア
Kyosokyodo】

平成25年度 新渡戸塾こども講座

「ふるさとを愛する心」「武士道の心」「開拓の心」を、地域の絆の中で育むこども講座・寺子屋稲生塾を市教育委員会と共催しています。市民ボランティアの協力を得て6月～8月に4つのプログラムを実施しました。

① 新渡戸稲造の武士道精神を学ぼう ―開講式― 6月22日(土) 13:00～16:30 [場所：十和田市南公民館]

開講式と第一回プログラム「新渡戸稲造の武士道精神を学ぼう～武士道白熱教室～」を十和田市南公民館で開催しました。開講式で小山田久十和田市長と新渡戸館長から活動への激励の言葉をいただいた塾生たちは、引き続き『こども武士道』の著者・高橋和の助先生を講師に、身近な問題を武士道で考え、自分なりの意見を活発に出し合いました。参加した子どもたちは「自分と違う意見も聞けて、それがかえって楽しかった」「人の立場になって考えるのが難しいけど面白かった」と話していました。



② 150年前の行灯をつくろう！ 7月6日(土) 15:00～20:30 [場所：十和田シティホテル駐車場～太素塚]

行灯づくりのワークショップ(講師：工作屋台村 吉田紀美男 村長)を十和田シティホテル駐車場で行い、キャンドルナイト in 十和田2013として太素塚境内に飾って点燈式をおこないました。今年はお楽しみに昔懐かしい「十和田かるた」を使ったかるた大会で盛り上がりました。十和田かるたは昭和52年(1977)十和田市観光協会が制作したもので、今回は三中トライやる生・三本木中学校3年小田達朗くんの協力で子供用解説資料を作成し、楽しく十和田の歴史文化を学びました。



③ 太素の森のお話し会 7月27日(土) 9:00～12:00 [場所：太素塚]

丸井精米工場 丸井可朗氏による昔のおやつドンキミ体験の後、十和田市の霊山・月日山の伝説や、新渡戸稲造の子ども時代のエピソードをもとにした紙芝居(語り部：こま草の会・小野寺功氏)を聞きました。今回は「開拓村」をイメージして稲生川の工事道具「もっこ」を使ったゲームや開拓時代の食事「そばかつげ」昔のおやつ「手焼きせんべい」などの体験をグループに分かれて行い、地域の歴史や文化に親しまいました。



④ とわだ時空調査隊 ―まちの魅力を発信しよう！― 8月3日(土) 9:00～16:00 4日(日)9:00～12:00

3日(土)中央公民館において、稲生町在住の三浦芳靖氏から三本木原開拓をルーツにもつ中心街・稲生町の歴史や思い出などを聞いた後、4つのグループに分かれて市民ボランティアの方々とともに、それぞれのお店の宝や魅力をインタビューしました。さらに1つのグループはまち探検の活動をビデオ撮影しました。翌4日(日)子どもたちはボランティアの方にアドバイスをいただきながら調査内容を壁新聞とビデオにまとめ、ビデオはYouTubeにアップして情報発信しました。壁新聞とビデオは現在、まちなかへ巡回展示中です。畑中あんこ屋様、(株)相坂屋様、カトリック十和田教会様、(有)成巴様、まち探検へのご協力ありがとうございました。



企画を支えたボランティアの皆様、暑い中、子どもたちの安全確認とサポートありがとうございました。

十和田の
商店街の魅力を
世界に発信

YouTube 稲生塾 投稿

【稲生塾生の壁新聞】

★壁新聞について東奥日報、テリー東北の地元局長さんから講評をいただきました★

あんこおい新聞



★時代の変化とともに歩んできた畑中あんこ屋の歴史や、経営者畑中八ヨさんの人柄がよく伝わります。
(テリー東北 十和田総局長)

十和田時空新聞



★かつて相坂屋に動物がいたことなど、今では知る人の少ないお店の歴史を掘り起こしました。
(東奥日報 十和田支局長)

カトリック新聞



★教会内にある物にも、いろいろな意味があるのを知り、新聞を読んだ多くの人が驚くと思います。
(東奥日報 十和田支局長)

成巴(株)お宝新聞



★伝統ある成巴呉服店で、杉本佳築子社長が4代目を継いだ流れがよく分かります。
(テリー東北 十和田総局長)

【子どもたちのまち探検活動全体への講評】

テリー東北 記事には事実の正確な把握と、人の考えが盛り込まれていることが大切です。どの新聞もバランスよく作られており、協力して制作した跡がうかがえます。普段、何気なく見ている場所でも、掘り下げることで記事になることが分かったのではないのでしょうか。十和田の歴史について、初めて知ることが書いてあり、私自身の勉強になりました。
(テリー東北・西館康司 十和田総局長)

※各壁新聞への講評全文は「壁新聞展」にてご覧下さい

東奥日報 子供たちの壁新聞は、いつも身近にある「なぜ」に焦点を当て、見過ごしてきた驚きと感動を伝えてくれます。お店の歴史を知ることには街の歴史を知ることであり、未来を考える大切な情報の蓄積になります。何より直接お店の人に話を聞くこと自体が貴重な体験であり、記事の中の証言は貴重な資料になります。今後の活動の継続を期待します。
(東奥日報・三浦博史 十和田支局長)

★寺子屋稲生塾 壁新聞展★ 場所：青森銀行十和田支店ロビー 期間：10月31日(木)まで

畑中あんこ屋 店主 畑中八ヨ

稲生塾の子もたちに昔のことを色々聞いてもらい、こちら
嬉しかったですし、素晴らしい新聞にまとめられ心から感謝して
います。昔のことに目を向けてくれる子どもなどなかなかいない
中、次から次へと出てくる質問には驚かされました。こちらの話
をきちんと理解し、さらに発展させて的確に質問してくれて、子
どもさん達とそんなお話ができるなんて、これまで生きていて一



番面白かった！まち探検はとても良い活
動だと思いますので、壁新聞を多くの方が
見られるように、通りがかりに見られる
ような場所での展示機会がさらに増
えて、一層発展することを願って
います。

平成25年度稲生塾
まち探検にご協力
いただいた方々より

カトリック十和田教会 主任司祭 佐々木 博

地域の子供達就由緒ある建物を訪問し、関心を示して手
づくりの素晴らしい壁新聞で発信する稲生塾のまち探検は、地
域の宝を地域に知らせる意義深い活動です。十和田教会の建物は
地域のかげがえのない宝であり、それが表すキリストの素晴らし
さにも多くの方に会ってみたいと思います。地域の方に多く



知ってもらおう事が願いますが、こ
れまで併設の幼稚園を通しての関わり
に留まりがちでした。今回多くの方
に教会に関心を持ってもらう機会
となり、今後も地域との接点を色々
な形で持っていきたいと感じていま
す。

株式会社 相坂屋 社長 江渡信貴

子どもの視線は真っ直ぐで、いただいた壁新聞を読んでち
りも素直に嬉しく感じました。私のお店の宝は「人」とお話し
しましたが、十和田の宝はこの素直な心の子どもたちです。こ
の子どもたちに昔の人の思いや技術、伝統を伝え、それを活か
し、いかにつないでいくかを考えることが教育であり、稲生塾
の活動はとても重要と感じます。十和田を知り、良さを発見する
ことで郷土愛は養われます。郷土愛が養われれば先人が築いてきたものに磨きをかけるこ
ともできます。子どもたちにはこうした活動を通
して十和田をもっと知って、外に発信
してもらい、未来の十和田をさらに輝
かせてほしいと願っています。



有限会社 成巴 社長 杉本佳築子

稲生町150年の歴史の縁、自分の先祖や地域の歴史を掘
り起こして再び縁を結びなおす良い機会になりました。昔のま
ちを知り、今を知り、稲生町の盛衰を知る中で、無常の世をどう
生きていくべきか、子どもたちが考える機会になっていれば幸い
です。人に先祖がいるように地域にはそこを拓いてくれた先人が
います。生きる上での基本である先人へ
の感謝を自然に学ぶことができる稲生塾
は素晴らしい活動と感じます。また、今
回参加のお子さんに着物を体験してもら
いましたが、とても喜んでくれて、日本
の伝統「着物」を伝える大切さを呉服店
として痛感しました。



他地域から特別参加したボランティアの先生より

自分たちの住んでいる町を知り、好きになること。大切なことだと思います。今回の稲生塾で、子どもたちが自主的にお店の
人に質問する姿を見て、頼もしく思うとともに、嬉しい気持ちになりました。けれど、子どもたちがここまで頑張れたのは、ボ
ランティアの方々のサポートがあったからだと思います。これからも大人と子どもが協力し、十和田市をさらに素敵な町にしてい
ってほしいです。今回の活動で学んだことを、私の地域の調べ学習などでも活かしていきたいと思っています。ありがとうございました。

藤沢市立本町小学校6学年教諭 長崎達範



新渡戸塾こども講座 寺子屋稲生塾 これからのスケジュール

プログラム 5 世界と友だちPART③アフガニスタン
—料理・音楽などの文化体験—
■日時：11月9日(土) 9:00~12:00
■会場：プラスリー・マスタ ※材料費300円
■講師：アフガニスタン大使館 前副大使・現特別顧問バシール・モハバット氏



プログラム 6 書の心は武士道の心
【閉講式】 —書道&茶道体験—
■日時：11月30日(土) 9:00~12:00
■会場：十和田市民文化センター
■内容：一年を振り返り協力者の方々へ心を込めてお茶をたてよう



お申し込み・お問い合わせは 十和田市立新渡戸記念館 (TEL0176-23-4430) 十和田市教育委員会 (TEL0176-72-2318)

平成25年度 新渡戸塾 【水土里ネット稲生川 協力】
あなげき
稲生川穴堰ツアー

鞍出山穴堰(トンネル)内に残る昔の掘削部分を見学します

■日時：11月5日(火) 8:30太素塚集合 (9:00太素塚出発 12:00太素塚解散)
■定員：20名(対象・一般) ■参加費：300円 ■申し込み締め切り：11月2日(土)
※水路には大人の膝ぐらいの深さまで水があります。胴長、特長などの装備でご参加いただき、足元にお気をつけ下さい。
※申し込み・お問い合わせは新渡戸記念館へ(TEL・FAX0176-23-4430) ※胴長は若干数貸出し用もあります。



保存されている掘削痕

鞍出山穴堰出口近くの山神碑(市指定文化財)

トピックス | Kiyosokyodo共創郷土が
十和田ご当地手ぬぐいをつくりました

~十和田の大切なもの なくなってしまうものを入れました~

十和田の特徴でもあり、開拓の歴史からもつながる伝統精神「人と自然が共に創る郷土」。目に見える光景が変わろうとも100年後の未来にも守り伝えていきたい「共創郷土」の世界を表現。素材にもこだわった本染め手ぬぐい限定150枚を頒布価格500円でお分けています。新渡戸傳花押、新渡戸稲造直筆の文字も入っています。

※お問い合わせ：Kiyosokyodo事務局(新渡戸記念館内) TEL/FAX 0176-23-4430 メール info@kiyosokyodo.jp



太素の水プロジェクト

平成25年度 元氣な十和田市づくり市民活動支援事業で以下を実施中です
★サイト充実事業(「太素の水」保全と活用連合協議会) ★稲生川ガイド冊子作成事業(Kiyosokyodo 共創郷土)

mini NEWS

資料の寄贈

・関根幹雄氏(兵庫県立大学自然・環境科学研究所客員研究員)
リコリス球根 15種 合計30球

太素塚清掃奉仕

・6月2日(日) 7月7日(日) 8月4日(日) 9月1日(日) さわやかクラブ様
・9月21日(土) 十和田市老人クラブ大学通り老成会様
・毎月27日 Kyosokyodo共創郷土メンバーの皆様

ありがとうございました

関連情報

▶ケント・ギルバート氏が来館

新渡戸館長と親交のあるタレントでカリフォルニア州弁護士のケント・ギルバート氏が平成25年度市民大学(主催:十和田市教育委員会)第1講座「面白大国ニッポン」のため来十し、講演に先だち来館されました。講演を聴いた市民



ケント・ギルバート氏と



ギルバート氏の色紙

からは「政治、経済、文化など幅広い知識をお持ちの方だと知った。益々ファンになった」といった声が聞かれました。

▶稲生川灯ろう流し開催

8月16日(金)稲生川灯ろう流しを太素顕彰会、十和田商工会議所、(株)十和田市観光協会が共催し、多くの市民が見守る中19:00頃から280個の灯ろうが流されました。水土里ネット稲生川と十和田市消防団の協力で灯ろうはゆるやかに流れ、本年は稲生塾出前講座で子どもたちが作成した行灯紙による『稲生塾灯ろう』や、十和田市建設業協会の豪華な自作灯ろうもありました。



稲生塾灯ろう

▶稲生川をBSテレビ番組で紹介

7月31日(水)22:00~22:59放送NHK・BSプレミアム『緑輝く溪流・奥入瀬川紀行』(旅人・俳優 藤本隆宏)ならびに9月9日(月)21:00~22:00放送BSJAPAN『にっぽん原風景紀行~青森県 稲生川に息づく開拓の歴史~十和田市』(旅人・女優 西原亜希)で、十和田湖奥入瀬とともに稲生川がとりあげられ、開拓の苦勞や稲生川に育まれる地域の農業が紹介されました。

▶当館ボランティア Kyosokyodo (共創郷土) の新聞・ネット等での執筆活動

デーリー東北リレー連載「私見創見」に新渡戸富恵会長が「問題解決と未来創造~地域活性化とは~」[7月8日(月)]「体験で気付く人生の知恵~生きる力を育む~」[8月19日(月)]を寄稿。全国で地域再生に取り組む方々と「地・宝・人ネット」で意見交換も行っています。www.47news.jp/localnews/chikisaisai/

▶「ふくしま八重隊」が来館

十和田市商店街連合会主催「街なかオリエンテーリング・とわだ会津めぐり」[8月24日(土)~9月8日(日)]イベントパフォーマンス[9月7日(土)]に登場した「ふくしま八重隊」と、白虎隊に扮した三本木中学校生11名が来館しました。明治3年(1870)新渡戸傳が旧会津藩(斗南藩)の方々を三本木原開拓地に100戸(最終200戸余り)受け入れたご縁があり、とわだ会津めぐりに当館も立ち寄りどころとして協力しました。



▶ハピたの忍者道場を新渡戸記念館において開催



6月16日(日)『まちをあそぶ!! 忍者参上~忍者修業道場・新渡戸記念館の巻~』(主催:(特)十和田NPO子どもセンター・ハピたの/共同企画:

NPO法人あそび環境Museumアフタフ・バーバン)が当館で開催されました。参加した子どもたちは忍者姿で館内にあるお宝を探す修業などに挑戦し、最後には袷姿の当館小笠原書記が、お頭役を務め「疾風稲之助」の署名のある記念の巻物を子どもたち一人ひとりに手渡しました。



▶秋まつり初日9月13日(金)12:00稲生町中央町内会・わ組が太素塚で御神輿出陣式を行い「十和田祭唄」を太素塚に奉納して安全を祈願しました。

活動報告

▶青森県立美術館企画展「三陸復興国立公園指定記念・種差~よみがえれ浜の記憶~」[平成25年7月6日(土)~9月1日(日)]へ当館所蔵「虎丸御軍船図」他3点を貸し出しました。

▶館長・顧問の講師活動

7月12日(金) 三本木中学校2学年の総合的な学習で館長が講演会講師に(演題:未来を切り拓く力)
7月19日(金) 十和田市倫理法人会「モーニングセミナー」で顧問が講演会講師に(演題:新渡戸氏のルーツを探る)
9月21日(土) 一本木沢ピオトープ協議会「トンボ博士になろう」で館長がトンボ観察会講師に
9月22日(日) (一社)茨城県経営者協会・青年経営研究会青森視察会で、受け継がれる開拓精神について館長が講演

▶音楽学博士・音楽評論家として館長が活躍

8月15日(木)付デーリー東北紙に『「佐藤慎吾ピアノ・デュオ」を聞いて~郷土の誇り 若手に期待』と題し、7月15日(月)八戸市公会堂で開催された佐藤慎吾氏(八戸市)と由井暁子氏(盛岡市)の「ピアノ・デュオ“Piano Piano”」リサイタルについての評論を寄稿しました。また、『音楽現代』9月号[2013年8月15日(木)発売]の特集『奇才、異才な音楽家たち~その毒と魅力を探る』に「パハマン、チェカルスキー、ミケランジェリ、グルダ、グールド~結局は篩にかけられ残ったもののみが世に名を残す」と題して評論を執筆しました。9月21日(土)八戸聖ウルスラ学院で第9回若い翼コンサートオーディションの審査員を務めました。

▶平成25年度第2回太素顕彰会定期総会を開催

6月25日(火)十和田商工会館2F会議室(11:00~)で開催し、平成24年度事業報告及び収支決算報告について審議が行われ、原案通り可決されました。

▶9月27日(金) 11:30~新渡戸傳翁没後142年命日祭を開催しました。

▶7月25日(木)~26日(金)平成25年度日本博物館協会東北支部ならびに東北地区博物館協会総会・研修会(岩手県二戸市)に館長出席。

▶6月26日(水)平成25年度「太素の水」保全と活用連合協議会役員会・定期総会を水土里ネット稲生川2F会議室(17:30~)で開催。

編集後記 8月の終わり、エソゼミやアブラゼミに混じって聞き慣れない声が太素塚にこだました。何とミンミンゼミではないか!ここ十和田市内にはミンミンゼミはいないはずなのに。父さえ生まれてこのかたここでミンミンゼミの鳴き声は聞いたことがないと言ふ。県内では天間林や津軽そして下北に産するがそう多くもない。これも温暖化の証なのだろうか。一方私が審査員を務める全日本ジュニアピアノコンクール・全日本ピアノオーディションを主催する宮崎幸夫日本ピアノ研究会会長ご夫妻を十和田へお迎えしたのでここに報告する。十和田をとっても気に入られた様子で私としても嬉しかった。(館長 新渡戸常憲)



ご利用案内

・開館時間:午前9:00~午後4:00
・休館日:毎週月曜日(祝祭日は開館)年末年始(12/29~1/3)
・観覧料:大学生・一般210円(団体178円)
小・中・高校生52円(団体42円) ※団体は20名以上
十和田市民は観覧料が無料となっています



世界に通ずる私たちのローカル記念館を目指して
十和田市立 新渡戸記念館
Nitobe Memorial Museum
URL www.towada.or.jp/nitobe/

発行日 2013年10月1日
編集・発行 太素顕彰会・十和田市立新渡戸記念館
〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1
Tel & Fax : 0176-23-4430
Email : nitobemm@hi-net.ne.jp
株式会社 岩間印刷
印刷